

345

昨迄教師内田孝吉の夫人も同姓にあって、同夫人から夫君への書信に依ると、バンガローに赴き、内田夫人(國枝教師)と共に、バタマ在住者子女のみの幼稚園、如き設備による教育に任事する傍らピアノの教授もして居るといふ、総て当局の行遇は極め良好であつて、婦人連は最も満足してゐる事である。

五月四日(日)

故大智氏
葬儀

午前十時半、故大智氏の葬儀が、収容所横の通路に於て佛式により執り行はれた。時刻に到るや車側 gate 前方西側に全同胞は整列し棺を近づけ、最も粗末な台に於て西側に於て置かれ、其処へ棺を安置し一同は経隊となつて最敬禮を行ふ。最初軍には加特力教に基き執りの儀を行つたが、故人が佛教と判明した結果遂に佛式に変更されたのであつて、布達よりの僧侶五十四名及び大陸の三名が加はり、讀經がけられた。蓋し稀に見る盛況である。僕等は隊列の右方地位に於て遙く遙く僧侶一部の僧部を~~見~~幸ひに見るを得たのであつたが、棺の最近位地はバタマ諸君に依つて占められてゐた。恰も此時刻に~~参~~来訪のスペイン領軍に國務省派遣の吏員は監督武官と共に學壇の後方に参列してゐたのを認めた。式後、棺は

346

パナマ出身者によって静々と運ばれ参列同胞は旧地位に復いて、えつ車側 gate に待ち構へる自動車、納車めまらぬ間、最敬禮を施した。

オウラホマ州に於て土葬がなされて、キヤンパ同胞代表一名と友人代表一名とで土葬に引する事と許され棺に収め、茲に最も厳肅裡に Mulicians arrest に依るオウラホマ監禁所に於ける、第一犠牲者の葬送は七百同胞の哀惜裡に終了と告げられたのである。

初七時第一巴(パナマ在住同胞テント区域)會堂に於て追悼會が催され各テント leader の出席があった。其際友人による謝辞及び故人経歴が述べられたが、故大智氏は、パナマの Pioneer として、茲前迄は製材所を経営し政府の市用商人と奮闘の、資産三十万弗と謂はれ立志傳中の人物に加へらるゝと謂ふ。尚ほ友人の挨拶感想として、故人は妻子の世話に牛馬と看護さんにてあらうか、パナマには百万の巨費を投じて、日本人医師の診療は得られぬ、然るに其の同胞医師、看護と得る事は故人が最も満足せられたであつた、且つパナマ出、大陸へ収容されるまでは、今次戦争の戦況全く不明にいつても拘らぬ、而して新嘉坡にて大陸在住同胞から諸戦況を聞き得て非常に満足にぬん、加へるに各方面に於ける代表同胞数百名の葬送を受け、盛儀厳肅裡に最ねと全員の事は地下冥に餘りある云々、是に涙を流しては聴かれぬ言葉である。

347

同市在任
検挙

柳及び若田両老等、家族等の書信によると
市では最近復又検挙がなされ、田中邦彦、
田中豊、加原寛、中河治治等合計約二十名程
が検挙されたと云ふ。

スペイン領事との会見模様は竹岡老によつて
明日詳細に報告される予定となつてゐる。右は
各返の代表者が一様に同意を以て、一つの記録
に基づいて同時に発表する申合となつて居るが、一
部では代表者が駆け抜け切つた功利的に、今晚既に
発表するものがある。

可笑い事は、此の非常時國難にあつてゐる
がら、こんな収容所内で、同胞同志の勢力争ひ、
虚栄の争ひや争ひが、一進一退を繰り返して、
西北帝が少数だと云々ウルサイは寧ろ滑稽で
もあり且非常時不謹慎でもある。

五月五日(大)

本日前十時頃、吾が区域(第四区)人員食堂に
集合の上、昨スペイン領事との会見の顛末を報告、
竹岡会見記録と朗讀の後、田中老が更に質
問に應答詳細に渡り説明するやうになつた。
会見顛末の記録左の如し。

① 1942年五月四日、ニューオリアンズ駐在スペイン
領事がレー氏、米國の務省ヤング氏及びエッケ
ル少佐、代表者会見要矣。